

文部省選定 第26回日本産業映画・ビデオコンクール日本産業映画・ビデオ賞 1988年教育映画祭優秀作品賞 1988年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第8位

日本が世界に誇りうる伝統的な技術の一つ、宮大工による木造寺院建築は、近年、木材入手難、職人不足などから、その事例は極めてまれなこととなっている。映画は、萬満寺本堂の建立過程を通して、宮大工による伝統的技術の細部や、珍しい木挽（こび）き職人、木彫家、屋根葺きに活躍する銅板工らの手わざも収録している。

「モノと道具と人の、これはうらやましいほどの陶醉の姿である。それは造る人の祈りの姿でもある。祈りがあってこそ寺の建築は仏に捧げられる。木組みは合掌の心組みともなる。これは伝統の匠（たくみ）の技を〈萬満寺本堂〉建立の経緯を追って活写した貴重な映画である」（東京大学名誉教授 村松貞次郎）



千葉県松戸市の馬橋駅近くに臨済宗法王山萬満寺がある。古い山門には、国宝の仁王尊があり、この像を股くぐりすると中気除けになると信じられ、人々に親しまれている。この萬満寺で本堂消失以来90年ぶりに新本堂が建立されることになった。総檜造り、宇治の平等院風の様式による本格木造建築で、宮大工をはじめとする工匠たちが伝統の技と巧みを競い合う作業が始まった。現場に運びこまれた化粧材の檜は自然な反りが収まるまで寝かされ、その間に大屋根を支える小屋組材の準備が進められた。木挽き職人が昔ながらの大鋸（おが）で太い丸太を縦切りにする。寺院建築特有の大きな虹梁（こうりょう）には、木彫家による古典的な彫刻が施される。宮大工たちは柱や梁の接合部となる仕口造りに力を傾け、屋根下となる小屋組へと進む。古式にのっとった上棟式の後、屋根には銅版が葺かれる。そして、本堂外陣では、「木組の技」の粋をこらした「折上げ格天井」が造られる。こうして、工匠たちの技と心が深く刻みこまれて、3年を費やした本堂は、昭和62年遂に完成した。

記録
16ミリ
カラー／32分

■企画
大成建設株式会社

スタッフ
■製作
村山英世
■脚本・演出
堤 哲朗
■撮影
堤 哲朗
山屋恵司
■照明
水村富雄
■音楽
長沢勝俊
■効果
福島幸雄
■解説
鈴木瑞穂